

21世紀は「環境の世紀」と言われ、「循環型社会形成基本法」をはじめ、環境保全にかかわる種々の法律の整備、運用が始められたが、地域および地球環境面の現状は、温暖化問題や廃棄物問題など、その改善に長い期間を要する状況を示している。これを改善していくには、これまでの経済成長に重きを置き、われわれの生活を豊かにしてくれた過去の社会システムを徐々に変えていく必要がある。

生活環境を良くするとともに地球環境への負荷を減らしていくためには、まず廃棄物の発生量を減らしていくことが重要である。しかし、廃棄物の減量化やリサイクルの必要性が叫ばれて久しいにもかかわらず、これは十分に進んでいるとはいえない。大量生産、大量消費による環境への負荷を廃棄物処理という形で下流へしわ寄せする現在の社会システムはすでに限界にきており、製品の開発・製造・輸入・流通・消費・排出・回収・再生利用の各段階において、使い捨て製品の製造販売や過剰包装の自粛、製品の長寿命化、国民の生活様式の見直し、使い捨て製品の使用の自粛など、廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進する社会システムを築き上げていくことが必要となっている。

大量生産、大量消費、大量廃棄の社会から、環境への負荷を出来るだけ少なくする資源循環型の持続可能な社会、自然と共生できる人間社会を目指し、次世代に引き渡していくために、企業は社会から求められるものを提供し、その価値を認められてはじめて存続できるものであろう。

当社は、循環型社会への貢献を目指し、フィルムをはがして簡単にリサイクルが出来る「P&P リ・リパック」を開発し、食品容器のリサイクルシステムを展開している。「P&P リ・リパック」の構造とし



食品トレー・リサイクル・シンポジウム

ては、真ん中の芯材に、スーパーやイベント会場から回収されたプラスチック容器や使用済みの魚箱などの再生原料を使用している。衛生上の問題を回避するため、この芯材をバージン原料でサンドイッチ状にはさみ3層構造になっている。さらに表面に薄いフィルムを熱圧着し(接着剤は不使用)使用後に、このフィルムを汚れと一緒にはがすことで、本体を水で洗うことなく容易にリサイクルに回すことができる仕組みとなっている。

これは、阪神大震災で被災した人々が水のないなかでお皿にラップをかけて、お皿を洗わずに何度も

バリューサイト VALUE SIGHT

目指すのは、 真の循環型社会を 実現する企業

環境社会への対応策が急速に求められているなかで、リサイクルを推進する社会システムの必要性から、実際にその実現に取り組んでいる企業がある。今後の循環型社会の実現に向けた次なる挑戦は -。

使っている光景をテレビで見たのが開発のきっかけとなった。このこともあり、新潟県中越地震の被災

地域にも「P&P リ・リパック」を無償で提供した。その結果、水の使えない状況でも衛生的に処理できる容器として被災者の方々に喜ばれたのは嬉しい限りであった。

「P&P リ・リパック」は屋外イベント会場でも機能を発揮し、ごみの削減に効果を上げている。しかし一般的に循環型社会に向けた具体的取り組みが進むにつれ、リサイクルすることでむしろエネルギーや環境負荷を増大させてはいないかという懸念が強くなって

いることも事実である。そこで当社のリサイクル容器「P&P リ・リパック」は実際にどの程度の環境負荷の低減が達成されているのか、東京大学生産技術研究所・安井至研究室にご担当いただき、ライフ・サイクル・インベントリー（LCI）分析に基づいて環境負荷に関する検討を行った。その結果、例えば横浜市のイベントで2万8千枚を使用し、60%回収したが、新庄市で再生した場合はごみとして焼却した場合よりも二酸化炭素の発生が50%削減され、固形廃棄物は60%削減、エネルギーも30%以上削減されるということが分かった。このことからイベント

の生徒たちがプラスチック再生原料製造設備（リサイクルマシーン）を運転し、食品トレーから再生原料（ペレット）を生産する。「友愛園」で製造されたペレットはヨコタ東北が市場価格で購入し食品トレーやお弁当容器になる「P&P リ・リパック」の芯材としてリサイクルしている。

新庄方式リサイクルシステムのスタートを記念して、昨年11月25日には新庄市内で「食品トレー・リサイクル・シンポジウム」が開かれた。北海道から沖縄まで、380人も参加者があり、関心の高さがあらわれていた。パネラーの一人として横浜市にある社会福祉法人・同愛会「幸陽園」の谷水克重施設長が参加され、「横浜市でもヨコタ東北から設備の貸与を受けて、大手スーパーと提携し、6月から新庄方式を導入したい。心身にハンディキャップのある人たちの経済的自立の方策と社会参加に、一つの光を見つけた気がする」と発言された。新庄市ではこのような環境と福祉をつなぐリサイクルの環が着々と動き始めている。環境と福祉という21世紀の課題を解決するための大きな一歩になると思っている。

また昨年、炭谷環境次官らの提唱により、環境福祉学会が発足した。環境と福祉が車の両輪として、環境型社会を築くために動き始めたのだと感慨深いものがある。2月にはその環境福祉学会で、社会福祉施設と連携した食品トレーのリサイクル事業として新庄方式リサイクルシステムの事例発表を行った。新庄方式をきっかけとして、全国的に参加の輪が拡大され、そして福祉施設の皆さんの手を借りながら官民一体となり「環境と福祉の環をつなぎたい」。これが私の夢である。

最上



株式会社ヨコタ東北
代表取締役社長

横田 健二

などに「P&P リ・リパック」を導入する事でエネルギー消費やCO₂の排出量の削減はもちろん、ごみの発生抑制を確実に実現できるといえるだろう。

また、この度、「環境と福祉の融合」を目指し、福祉施設における障害者の自立と社会経済活動への参加を促進するため、福祉施設と連携し、再資源化を行う新たなプラスチックリサイクル事業に着手した。

このような環境保全と知的障害者の雇用創出を目指した「新庄方式リサイクルシステム」は全国でも初の試みとなる。スーパーの店頭などを通じて消費者から回収された食品トレーや容器を、知的障害者小規模作業所「たんぼぼ作業所」の生徒たちが収集・選別し、社会福祉法人・山形県手をつなぐ親の会が運営する「友愛園」の作業所に搬入する。「友愛園」

横田 健二（よこた・けんじ）

株式会社ヨコタ東北 代表取締役社長。

昭和22年生まれ。千葉県在住。

昭和54年最上町において、有限会社横田ビニール山形工場を設立しプラスチック製豆腐容器の製造を開始。平成10年環境に配慮した“はがせる容器「リ・リパック」”を開発。平成12年リサイクルと環境教育のための見学施設「アメニティセンター」を新設。平成16年福祉施設と連携し、再資源化を行う新たなプラスチックリサイクル事業「新庄方式」に着手。

株式会社ヨコタ東北

〒996-0053 新庄市大字福田字福田山711番地139

TEL 0233-29-3611・FAX 0233-29-3612